

平成22年度学校評価表(最終評価)

学校番号	75
------	----

長野県梓川高等学校

評点 5: 十分 4: ほぼ十分 3: どちらともいえない  
2: やや不十分 1: 不十分

\*「評価項目」の( )数字は、重点目標の項目番号

領域	対象	評価項目	評価の観点	最終評価(成果と課題)	評点	具体的な改善策・向上策	
教育活動	教育課程	(1)	教育課程研究とコース制の充実	生徒の要望や進路状況に応じた、カリキュラムの研究・検討を行い、コース制の改善を図っているか。	生徒への希望調査をふまえ、委員会で調整し来年度開講する選択科目を改良した。	4	来年度も、生徒の進路希望が実現するような選択科目を開講するよう努力する。
				学習指導要領改訂に伴う教育課程の研究・検討を行っているか	新学習指導要領に対応した実施科目を各教科で検討し研究を進めた。	3	平成24年度入学生教育課程表は、生徒募集が始まる前に早急に確定する。
		(1)	基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導	生徒の学力実態に対応し、工夫された教材作成に取り組んでいるか。	シラバスの生徒向けの説明は定着してきたが、次の段階(生徒の学習意欲の喚起)という点については、職員の共通理解が図られていない。	4	職員の共通理解と多角的な教材作成へのアプローチが必要である。
	学習指導		習熟度別授業や個別指導の充実	生徒の要望や理解度を把握し、習熟度別授業、個別指導の充実を図っているか。	授業アンケートを全ての教科で実施。数年前よりも授業に真摯に取り組む姿勢が顕著になっており、目的意識の高い生徒も多数いる。	4	授業アンケートの内容を検討する必要がある。また、アンケートを今後の授業にどのように生かしていくかが課題である。
			授業評価による授業改善	授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業改善に努めているか。	先生方の個人的な努力により個別指導は行われており、組織的な体制が現段階はない。習熟度別授業は、複数教科・科目で効果的に進んでいる。	3	学校全体として個別指導や補習授業のあり方や体制について検討し、生徒の願いや希望に応えながら、基礎学力の向上に資する。
		(2)	3年間を見通した計画的な進路指導	学年や個に応じた適切な進路情報の提供がなされているか。	各学年で進路ガイダンスを実施した。HRを通じての情報提供もとどこおりにできた。	3	3年間のうち、どの時期にどのような指導をしていくかを、職員間で共有し生徒にも明示していきたい。
	生徒指導		進路希望の実現と職業理解の促進	キャリアガイダンスや職場体験をとおして、職業理解の促進を図っているか。	ジョブカフェ・ハローワークを利用した校内説明会、駅前会館で明科高校と合同就職ガイダンス(3年)、企業見学会(2・3年)を実施した。いずれも職業	3	キャリアガイダンス(キャリア教育)を学校全体で計画し、進めたい。職場体験は、受入れ企業の確保が難しいので、見学会やガイダンスを利用し職業理解を深めていきたい。
			(3) 基本的な生活習慣の確立	全職員が一致して生徒の指導に当たり、集団生活のマナーやルール遵守が定着したか。	5月より、空き時間に校外の見回り・放課後16時台の電車に合わせた駅周辺の見回り実施	4	来年度も引き続き、問題行動を未然に防ぐよう、見回りを継続したい。
			生徒相談体制の充実	多様な悩みを持つ生徒の状況を把握し、適切な支援を図っているか。	SCによる職員対象の相談、職員研修会4回実施。発達障害の理解や、具体的な対応方法についても学んだ。個別ケースの対応、新入生に対する対応についても実施した。	4	支援を必要とする生徒を早期に把握し、個に応じた支援をする。生徒の状況が変化しており、職員への対応にも限界がある。職員数の増加や支援員の常駐、専門機関との連携を更に進める必要がある。
	生徒会	(3)	メディアリテラシーの習得	携帯電話やIT利用の、ルールやマナーの遵守が定着できたか。	ホームルームを通して注意喚起を行ってきたが、一部の生徒にマナー違反が見られる。	3	映像資料も利用しながら、情報機器の安易な使用に伴うトラブルや危険について啓発する。
自主的、主体的に行動する生徒の育成			生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・自治能力を育てているか。	創立100周年と絡めた行事に取り組む中で、「歴史・伝統」について考え自主的、自覚的に諸行事を考えさせた。	4	新体制への引継ぎもスムーズに進み活動が始まり、全校生徒の意識が高められる生徒会行事の企画・提案ができるようアドバイスしていく。	
組織運営			(1) 学校評価活動の充実	学校評価活動を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。	各行事実施後にアンケートをとり、教育活動改善に努めている。教育懇談会を開催。	4	今後も、生徒の授業アンケートや学校評議員会や地域との教育懇談会を継続し、評価活動を充実する。
	(2) 情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的に公開・提供をしているか。	行事予定や、実施後の様子などタイムリーに、新しい情報の発信に努めている。	4	マスメディア等へ情報を提供し、本校生徒の活動が、より多くの人に認知されるよう心がけたい。		
	(1) 地域の声を教育活動に生かす	創立100周年記念事業と生徒の教育活動が連携されたか。	総合的な学習の時間や記念式典の準備、文化祭シンポジウム等で連携した活動が行われた。	4	シンポジウムの手ごたえは、地域との連携や協力をさらに進める手がかかりとなるのではないかと。工夫を加えたい。		
地域連携		教育力の活用	地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。	総合的な学習の時間、進路講話、福祉体験活動などで社会人講師の活用が行われた。	3	地元大学や企業等との連携を模索し魅力あるカリキュラム作成が課題である。	
		校内研修	(1) 授業・学習指導法の改善	改善を図るための、研修会及び公開授業・研究授業等がなされているか。	5月・9月・11月・1月に専門家により「発達障害の理解」について研修実施。6/14～6/18に職員向けの公開授業を実施したが、参加人数が少なく十分でなかった。	3	時間・内容ともによい研修が実施できた。多忙の中、十分な研修が行える状況にない現状であるが、どのような形で実施するのがよいのか研究の必要がある。
			生徒の理解	多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びついているか。	生徒の目線に立つ努力をしているが、悩みが十分に伝わってきていないところがある。	3	方法として、無記名アンケートの実施を計画し、生徒から出てきた問題を個別に検討・解決していく。また、日常的に生徒との対話をより重視していきたい。